Triple Tree Media Information　2026 年 11 月 22 日

歯車が噛み合わなかった最終戦。言葉を失う Juju、それでも最後まで走り切り、完走 21 位で最終戦を終える。



結成 2 年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing』は、11 月 22 日（日）、2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権・第 12 戦『第 25 回 JAF 鈴鹿グランプリ』に参戦いたしました。今大会はシーズン最終戦であり、『JAF 鈴鹿グランプリ』のタイトルが懸けられた注目の 1 戦です。

HAZAMA ANDO Triple Tree Racing の 10 号車をドライブする Juju は、全 24 台が 2 組に分かれて争われる予選 A 組に出走しました。気温 11℃、路面温度 14℃という昨日よりもやや寒くなったコンディションの中、昨日、赤旗の為に果たせなかった戦略にトライし、3 周ウォームアップをしてフルプッシュ、1 分 39 秒 139 のタイムをマークしました。残念ながら Q2 進出はならず、この予選結果によって決勝レースは 25 番手グリッドからのスタートとなりました。

昨日開催された第 11 戦には 2 万 1000 人もの観衆が応援に集ってくれましたが、最終戦はそれを上回る 2 万 8000 人もの観衆が鈴鹿サーキットに詰めかけてくれまし

た。午後の決勝レース、スタート時のコンディションは気温 13℃、路面温度 17℃と、やはり昨日より僅かに寒さが増した状況下でのスタートでした。

Juju が乗る 10 号車は、昨日同様、クラッチの不調か、スタート時のトラクションのかかりが悪く、スタートで大きなジャンプアップは果たせませんでした。それでも冷静な野田英樹監督がタイヤ温度を確認しながらペースを指示。タイヤが温まった段階で、プッシュ、プッシュの掛け声が無線で飛ばされました。Juju もその期待に応え、前を行く 1 台をスプーンカーブ立ち上がりで捕えて 130R 手前でパス。ポジションを 21 番手まで上げました。

レースは首位を行くドライバーが 8 周目のコントロールラインを通過した段階でピット入口がオープンされ、いきなり 3 台のマシンがタイヤ交換に飛び込みました。以降、タイヤ戦略の異なる各車の戦いは、ファンに取ってはレースの面白さのひとつでもありますが、チームにとっては勝敗を左右する重要なポイントです。

タイヤが温まった Juju のペースは良く、前のマシンに着実に追いすがり、オーバーテイクのチャンスを待つ状態が続きました。均衡状態が続いた 15 周目、11 位までポジションアップした Juju がピットイン。タイヤ交換をしてピットアウトした直後、「タイヤがはまっていない！」と悲痛な叫び声がピットスタッフ全員の無線に響きます。万事休す。今シーズン 4 度めのトラブルに、野田英樹監督が「ごめん、Juju。本当にごめん」と無線で返し、即座に次の指示を飛ばします。勝負の権利を失った Juju はコース上でスロー走行をしつつピットを目指し、なんとか最後まで走り切ろうと後方を確認し、レース中のドライバーの邪魔をしないように気を遣いながらピットを目指しました。タイヤを締め込み、再びコースイン。勝負の権利はもはや無い状況ではありましたが、最後まで諦めることなく走り続け、自身のファステストラップでは、全体の 4 番手となる 1 分 39 秒 475 をマークする走りを見せてくれました。Juju は悔しさと共にスロットルを踏みつけながら今シーズン最終戦を、4 周遅れの 21 位で完走いたしました。

Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
12	鈴鹿	31	晴れ	13℃	17℃	25	21

※天気、気温および路面は決勝スタート時



◆ドライバー　Juju のコメント

「今日も寒い中、応援ありがとうございます。私にとってはスーパーフォーミュラ参戦 3 年目の最後のレースなのですけれど、国内最高峰のレースに参戦できているのは、いろいろな方々に支えられているのだと本当に感謝しています。今日は泣いても笑っても今年最後のレースだから、笑って終わりたかったのですが、レース後には、悔しさで涙が出てきてしまいました。いろいろな事を学んで、ひとつずつ成長してきていますし、チームとしても大きく成長してきているとは思います。でも、今日は悔しい。この悔しさは、正直まだ消化できていませんし、自分は切り替えが早いと思っていたのですが、まだ切り替えられていないというか、今シーズン最後の集大成を見せる場も無く終わってしまったので、悔しいとかそういう気持ち以前の問題だと思います。ごめんなさい、うまく言葉が選べないです。でも今日の悔しさを来年へのエネルギーに昇華させなければなりません。来年必ず笑顔になって晴らしてみせます。今年 1 年間、応援ありがとうございました」

◆監督　野田英樹のコメント

「本当に今日は、言葉が無いですね。自分たちは何のためにレースをしているのか、同じミスをなぜ何度も繰り返すのか、本当に全員でしっかりと反省せねばなりませ

ん。我々の今の状況では、本来、このスーパーフォーミュラという場にいるレベルではないと、悔しい気持ちでいっぱいです。このままでは、ドライバーの持つ才能をも殺してしまいかねません。そういった意味でも、犯してしまったミスを責めるのではなく、自分たち全員がこの事実を重く受け止め、いかに這い上がるか。来年への体制強化も含め、まだまだ自分たちができるということを証明していかねばなりません。応援してくださった皆さんやドライバーには申し訳ない気持ちでいっぱいですが、来年、必ずこの悔しさをリベンジできるように、しっかりとしたチーム体制を築いて戻ってきます。今年 1 年間、応援ありがとうございました」



◆代表　土沼広芳のコメント

「レースは本当に難しいですね。野田監督の気持ちも、Juju 選手の気持ちも、そしてミスしてしまったメカニックの今の気持ちも痛いほどわかります。レースは厳しい現実をいつも突きつけられますが、それを乗り越えて、前に進んでいかねばなりません。認めるべき点は認め、反省すべきところは反省し、全力で頑張るしかないのです。Triple Tree Racing は、常にポジティブに、前を向いて進んでいきたいと思います。来年に向けて、これからも応援よろしくお願いします」

◆この件に関するお問い合わせ：マネージメントアドバイザー　チャーリー・チェン　cac@3tree.jp